

つりがねにんじん (ききょう科)

地下に太くて白い根があり、チヨウセンニンジンに似ているのでこの名がついた。また、トトキといわれ若芽を食用とする。茎につく葉は3～4枚輪生する。花は青紫色から白色と変化がある。
 花期 8～10月
 草たけ 40～100cm
 生育地 草原



○ききょうの仲間ききょう科の植物は、いずれも茎や葉の切り口から白乳液を出す。花冠は大部分のものは鐘形(つりがねがた)の美しい花をつける。花の各部はめしべ以外はすべて5の数からなる。

○「山でうまいはおけらにととき」つりがねにんじんのことをトトキ、アマナ、ツリガネソウなどよぶ。



つりがねにんじんの花



つるにんじん (ききょう科)

茎の切り口から白い乳液が出る。葉は4枚輪生するように見えるがもともとは対生である。花は袋のようで先が浅く5裂、内面には紫かっ色の斑点がある。
 花期 8～10月
 草たけ つる性の植物
 生育地 山の日かげ地